

# 読売歌壇

さびげなくクラスの姉さん役の子が襟の返りを直してくれた  
 【評】小学校の高学年だろう。女子の方が早くおとなになる。こういうお姉さん役の同級生がたしかにいた。直してくれて恥ずかしくて、そして嬉しかった。あれから何十年。新聞の「海」という字を指差して「海だ」と母がおぼろげに言えり  
 【評】厳粛な歌。文字も忘れた母。しかしまだ読める字がある。新聞の活字から「海」を読んだ。なぜ「海」だけ読めたのだろう。神秘的な現実がここにある。  
 素晴らしい視力ですと眼科医の言葉に酔ひて出口をまちがふ  
 【評】医師のことは、神のことはの如くである。褒められれば天に昇る思い。嬉しきあまり出口を間違えちゃった。  
 たそがれの踏切へふと立ち止まり なぜだか不意に泣きたくなった  
 熊本市 中島 勇輝  
 われ棲むは軍馬補充部跡地なり征きてもごらぬ馬を幾方  
 福島県 黒沢 正行  
 欠席の友に届ける給食のコップが揺れる放課後の道  
 千葉市 中村 ゆり  
 あの頃はまた若すぎて今はもう歳をとりすぎ明日クラス会  
 海西市 樋口 勉  
 「古木巡礼」倉本聰の書き記す磐田のクスノキ会いにゆかねば  
 浜松市 藤田 亜耶  
 夕闇に行方不明の放送が流るる道を家へと向かう  
 伊勢原市 佐藤 治代  
 亡き犬と撫養川眺めたあの日から十七年も時は流れて  
 鳴門市 楠井 花乃



小池 光選

「だっこ」とパパに抱かれて帰ったり忘れし靴の存在感  
 さぬき市 塚原 賢治  
 【評】孫であろうか。靴を履いて意気揚々とやって来た幼な子は、疲れたためか抱っこされたまま帰った。残された靴が作者に語りかける。「存在感」という語が印象深い。  
 入力の稚拙な誤り言い合いて夫婦いさかひ確定申告  
 鴻巣市 福島 勉  
 【評】昨今は自宅からオンラインで確定申告ができるようになった。便利ですと言われるが慣れるまでかなり苦労する。小さな誤りから口論が勃発。身につまされる歌である。  
 延伸の新幹線のその先に繋がらなかつたふるさととはある  
 さいたま市 柳館多恵子  
 【評】北陸新幹線が延伸し、金沢と敦賀が繋がった。しかし作者のふるさとはその先。あと少しの距離が望郷の思いを切なくする。母を想う時間減りゆくさびしさを告げれば海に燕光れり  
 垂水市 岩元 秀人  
 通院にも楽しみありて売店の農場玉子サンドを選ぶ  
 小野市 大野多恵子  
 消え残るうさぎに雪降る春の日も梅の蕾の膨らみ目立つ  
 藤沢市 鮎沢 永二  
 壇上の卒業生にマスクなく返事が響き新たな世界  
 川口市 田代 博人  
 涙落つ亡母の最期の日記にはヨシオ還暦大きくなったと  
 鶴ヶ島市 由井 意男  
 おにぎりは木の葉模様の皿にあり有間皇子を徳びつつ食う  
 阿久根市 松永 太一  
 行く春の生駒の谷に来て見れば休耕田にれんげ群れ咲く  
 生駒市 宮田 修



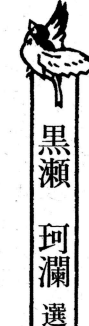
栗木 京子選

居酒屋で呑むこの友と放課後にツツシの蜜を吸いたかったな  
 富士見市 松本 尚樹  
 【評】目の前の友人と少年時代を過ごせたらさぞ楽しかっただろう。その夢想させるほどいいヤツであることが伝わってくる。ツツシの蜜の郷愁も効いている。  
 やか、が好き すきか にこやか たおやか にしなやか はなやか まろやかに  
 東京都 せんとおん  
 【評】涼やか、のびやか、軽やか…なるほど「やか」で終わる語に嫌な感じのものってない(冷やか、ぐらいか)。チャミングな発見を、圧倒的な説得力でまとめた一首。さよならをたくさん言つたため三月の三十一日あると思えり  
 船橋市 矢島 佳奈  
 【評】二月のあと、余計長く感じる三月だけが素敵な解釈だ。サ音の響き合いも心地いい。差出人不明の風が届いたら春だと思え スニーカー履く  
 大和郡山市 大津 穂波  
 葉脈のしつとり包む柏もち母と父とを兼ねる手のひら  
 足利市 坂庭 悦子  
 窓の外だけが勝手に春になるひとりで聞いたらぐいすの声  
 大和郡山市 本田 岳  
 黙読のやうに煮立てる粒餡も街も深まり晩春の色  
 小諸市 藤 雪陽  
 ドラえもん見ては思わず涙ぐむ私の中のどこでも涙  
 守口市 小杉なんきん  
 わたくしのころを決して受け取らず手を振る方のあなたに賭ける  
 市原市 十条 坂  
 命日を知らない君の誕生日みつける古いアドレステス帳に  
 東和和市 月館桜夜子



俵 万智選

「かぜいくととりさんころされちゃうんだね」待合室に幼子の声  
 長野市 原田りえ子  
 【評】鳥インフルエンザによる鶏の大量殺処分が繰り返される。人間ならばお医者にかかれるが、家禽は殺される。そのことに心を痛める子どもが、大人の胸を打ちます。  
 持ては軽いカップラーメンそのことがたのもしい食がくるしくなくて  
 川崎市 からすま  
 【評】食べることで体が苦しい。この身体で生きることで重い。そういう精神状態でも、カップラーメンならば、食事に少し手を抜ける。それが心の救いとなる時もあるのだ。  
 いなり寿司屋には売れて大皿がななめに干さる駅前食堂  
 大和郡山市 四方 護  
 【評】大皿に準備されたいなり寿司は大人気で、すぐに売り切れる。街角の素朴な風景。作者はちゃんとありつけたのでしょうか。  
 作者はちゃんとありつけたのでしょうか。  
 艦群れて白く波立つ屋下がり黒き運河に雨降りしきる  
 稲城市 山口 佳紀  
 街灯に羽虫が寄つてくるようにやさしいひとに集まる雑務  
 八王子市 吉村のぞみ  
 十五日間相撲がとれて幸せと四勝十一敗北確磨居り  
 草加市 新井美智子  
 空の色風の匂を嗅ぎ分けて今日飛び立てり丹頂の白  
 東京都 田中 隆  
 知り合いに手を振るごとく壁拭きて清掃員は風呂場出でゆく  
 秋田市 斎藤 朗  
 裏切ったつもりはないと着ぐるみの手から飛び立つ風船の群れ  
 宇部市 常田 瑛子  
 「ライドシェア」新力タカナ語また増えて煮干しの背骨喉にさらつく  
 さいたま市 長谷川幸子



黒瀬 珂瀾選

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌壇(俳壇) ○○先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はたけのこ